

氷上特別支援学校

提案タイトル	仲間と生成ＡＩと一緒に考えた、 丹波市を「もっと良くする」ための提言
提案概要	こどもの数が減っている人口減少の影響だけでなく 若者がふるさとを離れる課題は、今ある丹波の良さ、 地域の魅力が伝わっていない、知らないことも原因で あることに気づき自分たちにできる解決策を考えた。
提案要素	(1)自分たちで行動する（eスポーツで地域の方と交流） (2)黒豆キーホルダーの制作と販売により丹波の魅力(黒 枝豆)をPRする。 (3)丹波市特産物自動販売機の導入 (4)キッチンカーで新しい仕事の挑戦の場を創る (5)私たちの考えた「未来」を歌・動画でPRしました。

(1) eスポーツで地域の方と交流

高校生が考えた丹波市の課題は、このままでは丹波市から若者が消えてしまうというもので、その課題解決のためにＡＩを活用しようと考えた点は、現在の高校生の発想として大変新鮮に感じました。ＡＩに聞いてみて気づいた「今ある丹波の良さがPRできていない」「地域の魅力が伝わっていない」という視点は、とても大切な発見だと思います。ＡＩを単に答えを求めるツールとしてではなく、対話を通じて一緒に考えるパートナーとして使いこなしている姿勢に感心しました。

eスポーツで地域とつながる解決策は、実現可能であり、地域の皆さんも喜ばれることだと思います。実際に老人ホームでeスポーツを通じて利用者の方々と交流された経験は、とても素晴らしい行動だったと思います。世代を超えた交流の場として、eスポーツという新しいツールを活用したアイデアは、これからの地域づくりのヒントになります。継続して実践していただけたら嬉しいと思っています。

(2) 特産品PRと黒豆キーホルダー制作

地元の事業所と連携し、３Ｄプリンターで黒豆キーホルダーを制作された取組は、丹波の魅力を発信するための創造的なアイデアであり、地域資源の活用と産業振興の可能性を感じさせます。

特に、学生の皆さんが自ら地域事業者と連携し、最新技術を活用して丹波の特産品を形にしたことは、地域産業の新たな可能性を示すものです。

学生と地域事業者の連携を促進するための情報提供や、地域イベントでの展示機会の創出など、皆さんの活動を後押しできる方策を検討すべく、全ての議員で共有させていただきます。

(3) 丹波の魅力を発信する自動販売機設置の提案

丹波の特産品を24時間販売し、情報発信する自動販売機の設置というアイデアは、若者ならではの視点と実用性を兼ね備えています。A Iを活用した費用試算まで行われたことに、真剣な検討姿勢が表れており、大変感銘を受けました。24時間いつでも丹波の魅力を発信・提供できるこの構想は、観光客誘致や地域住民の利便性向上に繋がる可能性を秘めています。実現には初期投資や維持管理、商品供給体制の確立など様々な課題が伴いますが、市行政に対する特に重要な発想であり、要望・提案として市長に伝達します。

(4) キッチンカー事業の構想

学校で学んだ農業技術を活かしたキッチンカー事業の構想は、地域に新たな雇用と活力を生み出す可能性を秘めており、皆さんの未来への挑戦を応援したいと思います。

丹波の豊かな農産物を活用し、移動販売という形で地域内外に魅力を発信するこの事業は、若者の起業家精神を育むとともに、地域経済の活性化にも貢献すると考えます。

皆さんからの提案は市長へ伝達します。今後、皆さんがこの構想を実現される際には、市議会にもご一報ください。

(5) 私たちの考えた「未来」を歌・動画でPRしました。

紹介動画やテーマソングの作成など素晴らしい取組をされたと思います。特に「丹波ええとこソング」は、丹波の自然や人の温かさを歌で表現した素晴らしい作品で、とても心を打たれました。こうした発信力のある取組は、丹波市の魅力を広く伝える力を持っています。今後、市の広報活動などでも活用できる可能性があり、皆さんの創造力に期待しています。

氷上高等学校 【A班】

提案タイトル	多世代交流の場づくり
提案概要	高校卒業を機に若者が転出し戻ってこない理由は、お店や遊ぶところが少ないという理由だけでなく、自分たち地域に関わる機会が少ないことが課題ではないかと焦点をあて、交流を通じて地域の人を知り、かかわりを通じて地域に愛着をもってもらえる方法を考えた。
提案要素	継続的に多世代で交流する機会を作るため「モルック」が有効ではないか調査した。

継続的に多世代で交流する機会を作るため「モルック」を活用する。

「地域の方と関わる機会が少ない」という問題意識から、フィンランド発祥のスポーツであるモルックを使い、石生の公園やグリーンベル青垣で実施されています。その経験を通してモルックが多世代交流を十分達成できるスポーツであると確認されています。

周辺におられた住民の方に声をかけてモルック体験会を開いたり、モルック交流大会に参加して参加者と交流したりと、自分たちで実際に体験しながら調査を進めたことが素晴らしいです。「自然と会話が生まれた」「楽しかったと言ってもらえた」という実感を得られたことは、何より大きな成果だと思います。

提言としては、多世代交流の場づくりが必要であり、モルックはその目的を果たせるスポーツであるということだと思います。そして、効果として日々の生活から助け合いが生まれ、災害時でも共助できると想定された点は大切な視点だと思います。

交流を通じて地域の人を知り、関わりを通じて地域に愛着を持つという考え方は、まさに地域づくりの基本です。ゆめタウンなどの空き店舗の活用というアイデアも現実的で良いと思います。

高校生、あるいは市民が主体となって地域活動として展開されることを期待します。

氷上高等学校 【B班】

提案タイトル	バスでつながる輪～丹波バス路線の活用方法～
提案概要	丹波市の好きなところや足りないと感じるところをキックオフ会議から選定したキーワード「公共交通・ちーたん」から現地ヒアリング等を行った。学生の移動手段は電車とバス。より自由に移動できるバスをもっと活用できる（したくなる）仕組みができないか検討した。
提案要素	(1) 丹波のバス利用に新たな価値を （丹波バスポイントででかけよう） (2) 甘いひとときと未来を運ぶ （丹バススイーツフェス）

（１） 丹波のバス利用に新たな価値を（丹波バスポイントで出かけよう）

丹波市の課題は公共交通であるというところから政策提言に向けて調査・研究検討されました。市役所のふるさと定住促進課にヒアリングに行き、バスの現状について詳しく調べたこと、たんば恐竜博物館で「ちーたん」について調査したことなど、自分たちの足で情報を集めた姿勢が素晴らしいです。

丹波市内で学生が移動するためにはバスが必要ですが、バス停やバスの本数が少ない等のことから自由に移動できないという学生らしい困りごとから発して、運転手不足が原因としてあるのではないかと考えを広げられた点は素晴らしいと思います。

「学生の通学時以外の利用が少ない」「バス運転士の人材不足」という２つの課題をしっかりと整理し、それぞれに対応する解決策を考えたプロセスがとても分かりやすかったです。

そして、２つの政策提案に繋がっているのも良いです。特に、NicoPa利用時にポイントが貯まり、市内店舗のクーポンとして使える仕組みはとても創造的で、若者のバス利用促進につながる現実的な提案でした。大阪シティバスという先行事例をしっかりと調べて提案している点も説得力があります。今後、たんばコインなど地域で既に使われている仕組みとうまく組み合わせることができれば、もっと多くの人に使ってもらえる仕組みになる可能性がありますね。

高校生からの提言として、市長に伝達します。

（２） 甘いひとときと未来を運ぶ（丹バススイーツフェス）

丹バススイーツフェスは運転手不足に対して、若者の運転手への関心を向上させるために市内のスイーツ店とバスを組み合わせたフェスを開くなど斬新な提案となりました。バスの課題を「楽しいイベント」として考えるというアイデアが、とて

もユニークで面白いと思いました。若い世代の人たちがバスに親しみを持つきっかけになりそうです。

フェスの会場においてバスに関する体験ができるブースを設置したり、会場への往来にバス便を運行したうえでその利用者に会場内のお店で使えるクーポンをプレゼントするという取組は、多くの人に対しバスへの関心を高める効果が期待されます。

現在でも「働く車フェスタ」が開催されており、そのフェスタを活用することも良いかもしれません。しかし実現には、ウイング神姫やスイーツ店との調整、費用や場所の確保と言った細やかな計画が必要と思われます。

高校生からの提言として、市長に伝達します。

柏原高等学校 【C班】

提案タイトル	丹波市を「もりたてる」ために高校生である私たちが ができること
提案概要	高齢化の伴う人口減少と若い世代の人口流出等、社会の根幹的な課題があるが、高校生が地域に関われる機会が少ない現状も大きな課題ととらえた。 若者主導のマルシェの開催研究から気づいた「ワクワク感」の大切さを丹波市3高校合同文化祭を計画することで地域も巻き込みながら「あたたかいまち」「交流のあるまち」の実現に寄与できないか検討した。
提案要素	丹波市の高校3校合同で文化祭を開催

丹波市の高校3校合同で文化祭を開催

高校生が丹波市をもりたてるためにできることとして、高校生が主体となってするマルシェを考えていましたが、調査する中で継続性が難しい点やもっと自分たちがワクワクできることがないかと再度検討し、持続的な交流が生まれるための工夫として市内3高校合同の文化祭の提言に発展したことは高校生ならではの提言になったと思います。大路ファーマーズマーケットや丹波ハピネスマーケットに実際に足を運んで、運営されている人たちの話を聞いたことが素晴らしいです。「人が人を呼ぶ」「つながりを大切にする」という考え方を学んで、自分たちの企画に活かそうとした姿勢に感心しました。

最初の「マルシェ」というアイデアから、「もっと自分たちがワクワクできることは何か」と考え直して、「他校合同の文化祭」という提案に発展させたプロセスがとても良いと思います。一度きりではなく、続けていける形を考えたことが素晴らしいです。

実現可能な提言であると考えますが、ただし、高校が県の所管であるため、市の直接的な介入は難しい状況です。そこで、皆さんが生徒会として高校に提案することも一つの方法として考えられます。柏原高校の文化祭が今は一般に公開されていないということですが、それを地域の人や他の高校の生徒も参加できる形にするというアイデアは、とても意味があると思います。氷上高校と氷上西高校は一般公開していますので、まずはこの2校で試してみることもできるかもしれませんね。3高校の生徒会としての合同活動ができれば、さらに実現性は高まるのではないかと思います。実現のために後輩たちにも引き継いでいただくことを期待します。参考までに、丹波市では過去に高校生が中心になって「丹波祭」というイベントが開かれたこともあります。

先輩たちの経験も参考にしながら、皆さんならではの新しい形を作っていってほしいと思います。

柏原高等学校 【D班】

提案タイトル	高校生が楽しめる場づくり
提案概要	高校生が丹波に戻ってきたいと思えるまちを考えたとき、市内で楽しめる場所があるだけでなく、地域への愛着を高める経験や安心できる地域での居場所（人間関係）を視点に行動を起こした。
提案要素	地域の人とかかわる機会を増やすための流しそうめんプロジェクトとその振り返り

地域の人と交流する機会を増やす

若者の人口減少を問題ととらえ、高校生が帰ってきたいと思えるためには、楽しい思い出作りが必要であると流しそうめんイベントを企画・実施する中で、地域の人と関わることが地域への愛着につながると気づかれたことは、大変重要な視点だと感じます。そして実際に実施された行動力は素晴らしいと思います。シルバー人材センターの方々や地域の大人のひとたちと一緒に、竹を切るところから始めて、節取りをして、組み立てて、イベントを開催するまでの全てを経験したことは、本当に貴重な体験だったと思います。準備の大変さも含めて、自分たちでやってみたからこそ分かったことがたくさんあったのではないのでしょうか。

政策提言としては、地域の人と交流する機会を増やすことで地域住民との交流が生まれ、地域への理解や愛着が深まる。それによって、将来的に丹波に“帰ってきたい”と思える若者が増えるという提言で、具体的には「若者議会」の実施を挙げられています。

地域の人と交流することで、①安心感が生まれる、②居場所ができる、③成長や経験のチャンスが増える、という3つのメリットをしっかりと整理して示してくれたことが分かりやすかったです。都会の楽しさと地域での楽しさは違う種類の喜びだという指摘も、とても深い洞察だと思いました。丹波市の課題にも、高校生の皆さんが問題視されておられるように、大学進学のために市外に出られた若者が帰ってこられないことを挙げており、若者に帰ってきてもらいやすいように様々な施策を行っていますが、今回のような高校生の間に郷土への愛着を持ってもらうことで将来帰ってきたいと思ってもらうという視点は、新たな気づきです。

「若者議会」については、愛知県新城市や岡山県などでも実際に行われています。若い世代のひとたちが、自分たちで地域の課題を考えて、予算を使って実際に事業を行い、その結果を振り返るというプロセスまで経験できる仕組みです。

皆さんの今回の視点が後輩たちにも引き継がれることを期待します。

柏原高等学校 【E班】

提案タイトル	Return back in 丹波！プロジェクト
提案概要	<p>どうしたら丹波に若者が戻ってきたくなるか、調査の視点を娯楽施設等から仕事に焦点化し、丹波の就労に係る制度や実態を知る機会が少なく、認知度が低いことを課題ととらえ、高校生に企業への興味をもってもらうため、就職はそう遠くない自分の未来であることを楽しい感覚と真面目に意識できる機会が有効ではないかと考えた。</p>
提案要素	<p>Future.Free.Festival.Friendly を信念に挑戦する高校生主体のイベントを行う部活動を通して、地元企業と高校生が企画する誰でも参加可能な職業PRイベントの実施</p>

高校生と地元企業が企画する誰でも参加可能な職業PRイベントの実施

今回の提案は、高校生自らがすぐにでも実現可能な提案であり、また、丹波市内の企業、行政、高校を巻き込みやすい提案です。ぜひ、高校生の皆さんが主体となった「部活動」を立ち上げ、市内の各高校との連携に期待します。

後悔のない進路選択には地元企業との接点が大切だという視点は重要です。「感覚的に」「感情として」記憶に残る体験が必要だという考え方は、キャリア教育の新しい視点だと思います。地元企業での体験など、五感を使って記憶に残る取組は説得力があります。

丹波市では、過去に市内の3高校が企画・主体となってギネス登録された経験から、丹波市を盛り上げる「丹波祭(運動会)」やイベントが行われるなど、とても主体的に取組が行われていました。今回の企画は、丹波市内の企業・仕事についても知る機会が含まれており、皆さんの活動に期待します。

また、中学校の部活動の地域移行が進む中、中学生の中にも企画発案を主体とした部活を検討されている方もあります。高校生だけでなく中学生との連携へと広がることも期待しています。

丹波市商工会や丹波市観光協会等にも繋がり、行政並びに市議会とも一体となれば、更なる企画アイデアの提案が楽しみです。

氷上西高等学校【F班】

提案タイトル	土と触れ合う丹波バスツアー
提案概要	若年人口の流出課題を調査する中で、若者が丹波の魅力を知らないまま出ていくことだけでなく地域の人たちや外からくる人にも伝えることで守りたい故郷が守れるのではないかとい考え、コミュニケーションを深めながら体験できるプロジェクトを検討した。
提案要素	守りたい故郷づくり体験を通じて学ぶプロジェクト（陶芸体験→農業体験→料理体験）の提案

守りたい故郷づくり体験を通じて学ぶプロジェクトの提案

当初、丹波市の「体験」と「食」、そして「運動・マラソン」などのテーマも考えられていましたが、令和7年11月に「丹波グルメRunマラソン」が開催することになり、検討からは外れましたが、テーマを柔軟に変更して新しい提案にまとめられたことは素晴らしいと思います。高校生自身が「守りたい故郷づくり」を自分のこととして考え始めていることが伝わってきました。実際に今田町の陶の郷や山南町の竹岡農園に足を運んでヒアリング調査をされたことが素晴らしいです。自分たちで体験し、事業者の話を直接聞いて提案に活かす姿勢は、とても価値のある学びだったと思います。

バスツアーの陶芸について丹波市内にも青垣町などに陶芸体験工房があります。今後の参考にいただければと思います。

高校生自らの「やりたいこと」の具現化で、「土と触れ合うバスツアー」企画は、高校生の発想企画の提案として素晴らしかったと思います。陶芸・農業・料理という一連の体験を通じて、丹波の魅力を五感で感じることができる素晴らしい提案です。このような体験型の取組が、地域への愛着を深め、若い世代のUターンにつながると考えます。

今後も皆さんの積極的な参加と提案を期待しています。